

令和2年度上大久保中学校だより

上中だより

第8号

令和2年11月2日(月)発行

学校教育目標

「温かい学校 感動あふれる学校」

さいたま市立上大久保中学校

〒338-0824 さいたま市桜区上大久保861-1 TEL855-3901

<http://kamiokubo-j.saitama-city.ed.jp>

「渋沢栄一から学ぶ」

校長 堀田 明良

朝晩の気温も低くなり、本格的な秋の訪れがやってきました。さわやかな秋風が吹く晴れた日の朝には、校舎4階通路から秩父の山々や富士山が見えます。これから湿度の低くなる冬へ向かうにつれて、益々はっきりと見えてくることでしょう。グラウンドではダスト飛散防止のためのスプリンクラー設置工事もほぼ終わりました。校内で行われている照明のLED化工事も体育館とその周辺を残すだけとなりました。10月の1、2年生は新人体育大会によく取り組んでくれました。成果と課題を分析し、これからの練習に生かすとともに学習と部活動の両立に取り組んでほしいと思います。3年生は進路についての集会や、三者面談の準備、卒業アルバムの撮影など、3年間のまとめと将来に向けて取り組んでいます。

今、生徒の皆さんが将来のことを考える際、社会の大きな変化に触れずには考えられないでしょう。今からおよそ150年前の日本も明治維新という政治や社会の大きな変化がありました。グローバル化、ダイバーシティ(多様性)が進む今日は、明治維新の頃ととても似ています。その頃活躍した人物の一人に渋沢栄一がいます。皆さんも知っている通り、「日本資本主義の父」と呼ばれ、現在も世界で活躍している大企業や銀行の多くを設立した埼玉県出身の実業家です。令和3年のNHK大河ドラマの主人公となり、令和6年に発行される新1万円札の顔となる今話題の人物です。1917(大正6)年に著された渋沢栄一の著書「論語と算盤」では、以下のような一説があります。

今の青年たちは、ただ学問のための学問をしている。初めから「これだ」という目的がなく、何となく学問をした結果、実際に社会に出てから、「自分は何のために学問してきたのだろう」というような疑問に襲われる青年が少なくない。底の浅い虚栄心のために学問を修める方法を間違えてしまうと、その青年自身の身の振り方を誤ってしまう。(中略)

一時の成功や失敗という価値観から抜け出して、超然と自立し、正しい行為の道筋に沿って行動し続けるなら、成功や失敗などとはレベルの違う価値ある生涯を送ることができる。

昔に書かれたことですが、現代にも通じることだと思いませんか。また、著書を通して、道徳心と経済的に豊かになることのバランスがとても大切であると訴えています。こうして考えてみると、皆さんは「なぜ学ぶのか」ということをしっかり考え、志をもち、将来に役立つ知識や技能を身に付けるとともに、人格を磨き、コミュニケーション能力を向上させていくことが求められているのではないのでしょうか。

生徒の皆さん、「1年後の自分」「成人式を迎えた自分」「仕事をしている自分」「家庭を持っている自分」など、将来に思いを巡らせつつ、夢に向かって充実した毎日を過ごしてほしいと思います。